

SOWER

ソア＝種まく人

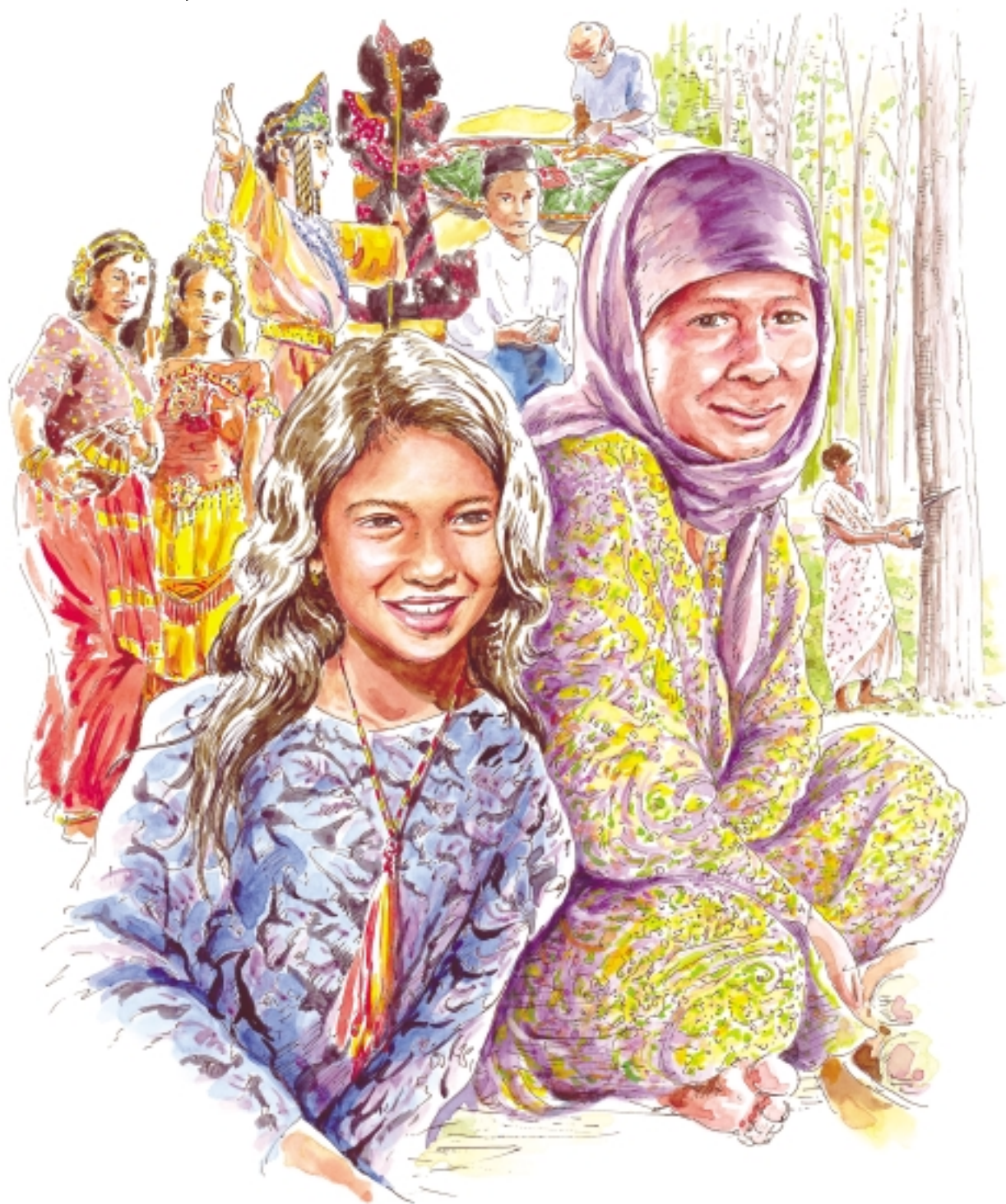
No.21

January 2003

財団法人

日本聖書協会

特集 **スタディ・バイブル**—新たな聖書普及の展開



新20 聖書の 世界

写真／文 横山 匡



永遠の契約

ノアの箱舟がたどり着いた霊峰アララト山（5137m）です。

「洪水で二度と肉なるものをすべて滅ぼすことはしない」と、創造主はノアと永遠の契約を立てられました。しかし現在の地球上には悪が満ちています。テロの応酬と止むことのない戦争、難民と飢饉、自然環境の破壊、増加する一方の犯罪等々。創造主が約束を守られたとしても、人間は自らの手で地球を滅ぼしてしまうのではないのでしょうか。それとも創造主は「ご破産で願いました」と次なるノアの箱舟を準備しておられるのでしょうか。

アララト山を仰ぎながら、創造主の顔色をうかがうような気持ちにさせられました。主よ、もう一度契約の印、祝福の印である「虹」を鮮やかに見せて下さい。

「人の血を流すものは

人によって自分の血を流される。

人は神にかたどって造られたからだ。

あなたたちは産めよ、増えよ

地に群がり、地に増えよ。」

しかし、 知恵の正しさは、その働きによって 証明される。

(マタイによる福音書11章19節)

主イエスは「今の時代を何にたとえたらよいか」と問い、

それは「笛吹けど踊らず、弔いの歌をうたったのにもはや悲しむこともない」アパシー、

すなわち人間の心が燃えない未熟で幼稚な有様に似ていると言われます (マタイ11章16節以下)。

このたとえば近代以後の科学・技術文明の発達と経済至上主義の選択の中で、ついに人間の精神や遺伝子も含め
すべて物質に還元するような新しい唯物論、生きる意味や根拠を喪失しつつあるニヒルな現今の風潮と同質の
カオス (混沌) を示唆し、「しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される」という適応句で結ばれます。
イエスと「知恵」を同一視するのはマタイの特徴ですが、並行するルカ7章35節は知恵の「子」を付加します。

すなわち、真の知恵としてのイエスに結びつけられているものの謂れです。

それ故、クリスチャンスクールの社会的使命は、虚無の反対の極である希望の教育を勇気をもって押し進め、

「今の時代」に挑む新しい「知」のパラダイムの構築と

その担い手たる若い世代の豊かな「人格」形成を追求しつつける働きにあります。

山内一郎

関西学院理事長、院長



表紙の言葉

マレーシアはマレー半島 (マレーシア) とボルネオ島北部 (東マレーシア) に分かれた多民族国家です。全土の65%は熱帯のジャングルで、豊かな大自然を残しています。
天然ゴムは世界一の生産量です。

(絵=月本佳代美)

C O N T E N T S

Sower
No.21
2003

2 **スタディー・バイブル**
—— 新たな聖書普及の展開

6 **旧約聖書における神の意志と歴史**

8 **神戸バイブル・ハウス設立に向けて**

9 **2005年吉ミュージカル進捗・絵本紹介**

10 **エッセー⑨ 守部喜雅
神が(私)たちを通して働かれる**

12 **第6回バイブルフレンズの集い**

13 **25年におよぶ息の長い通読**

14 **人物と聖書 鈴木範久
太宰治と聖書**

16 **手話訳聖書製作にご協力を!**

17 **『貧者の聖書』**

『スタディ・バイブル』

新たな聖書普及の展開



ドイツ語ルター訳
スタディ・バイブル

近年、海外では『スタディ・バイブル』の普及が進んでいます。そして、日本でも、

その出版を望む声は年々高まっています。

今回は海外での『スタディ・バイブル』の

出版状況をたどりながら、日本における出版の意義を

確認するとともに、日本聖書協会が将来的に発行を

計画し制作を進めている『スタディ・バイブル』の

特徴と、来年の5月発行を予定している

パイロット版『四福音書』の概要について、

ご紹介します。

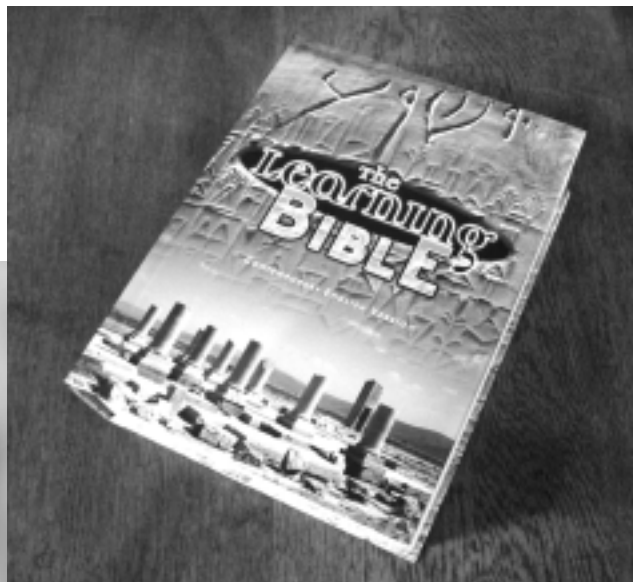
学びのための聖書

『スタディ・バイブル』は聖書の研究書や解説書ではなく、聖書本文を読み進めながら、その内容やそこに広がる豊かな世界について学ぶことができる「学びのための聖書」です。

聖書を学ぶためのものとしては引照付きの聖書がありますが、ご承知のように、これはあるひとつの言葉や文章と同じような意味を裏に持っている言葉や文章をすぐに引用できるように参照箇所を紹介したもので、それらの箇所に関する説明などはありません。

一方、『スタディ・バイブル』は、参照箇所だけでなく、原語に基づく解説をはじめ、聖書を学ぶうえで必要と思われる基本的なことで常識的なこと、たとえば、歴史的・社会的背景や生活習慣といった多種多様な説明が、該当する聖書本文のページ欄外に記載されています。箇所によっては関連する絵や図などが、さらに、巻末にはガイドや年表、地図などの付録も掲載されています。

たとえば、初めて聖書を読む方やこれまであまり深く読む機会のなかった方も、『スタディ・バイブル』ならば、聖書本文とともに、随所に併載された解説や説明を読むことで、ひとりでも楽しく聖書を学ぶことができるわけです。



韓国聖書協会の最新スタディ・バイブル

海外『スタディ・バイブル』事情

■普及のきっかけは欧米諸国から

現在、『スタディ・バイブル』を出版している国は、ドイツ、アメリカなどの欧米諸国が中心です。

そして、その多くは1992年にドイツで出版された“Stuttgarter Erklärungs-bibel Lutherbibel mit Erklärungen”すなわち『ルター・バイブル』（写真参照）を参考にしていくようで、いずれも前章に述べたように、聖

書に関する基本的なこと常識的なことについての説明や解説、関連する各種の図版類が随所に掲載されています。

もともと各国における聖書出版の全体的な流れとしては、用途別の聖書を充実させる段階にあるケースもあり、今のところは、必ずしも『スタディ・バイブル』がスタンダードになっていると明言することはできません。しかし、その普及は年を追うごとに着実に進んでおり、新たな聖書普及の展開という観点においては、『スタディ・バイブル』が欠くことのできない存在になりつつあるのは確か

なようです。

■韓国では今や聖書の主流に!?

欧米諸国ではまだ主流とはいえない『スタディ・バイブル』ですが、韓国では今やこれが聖書の主流になっているといっても過言ではありません。

同国の場合、頒布数もさることながら、より特徴的といえるのは種類の多さで、約10年前の1991年には、すでに18種類が出版されています（頒布数／67万冊、印刷製本／韓国聖書協会、頒布／各出版社）。

このように種類が多いのは、聖書本文は韓国聖書協会のものを使いながらも、記載している註の説明や解説の内容は各教派が自由に解釈したもの、いわゆる教派・教団の教義に基づいたものであるという点が、大きな理由として挙げられます。つまり、各教派・教団がオリジナルな『スタディ・バイブル』を作っているわけです。多様な『スタディ・バイブル』の登場は、全般的な聖書普及を進める原動力になっているともいえます。事実、昨年2001年には31種類が出版され、韓国聖書協会の聖書の総頒布数202万冊に対して、122万冊が他社の『スタディ・バイブル』です。

こうした流れのなかで、韓国聖書協会も独自に制作した『スタディ・バイブル』の頒布に踏み切りました。この聖書は、多くの人々の関心を集め、現在、同国で爆発的な頒布数を記録しているとのこと。

日本の『スタディ・バイブル』 その歩みと最新状況

■年月を経て熟した発行の機運

日本においても、これまでに大手出版社をはじめとするいくつかの出版社から、解説付きの聖書が発行されていますが、それらは聖書そのものより解説のほうが主になっており、また、一巻ものはほとんどありませんでした。こうした状況のなかで、10年ほど前から、多くの皆様から日本聖書協会へ「学びのための聖書」を発行してほしいという要望が寄せられてきました。



スタディ・バイブルは絵入りで解説も豊富だ

当協会では、聖書をより多くの方々に親しむをもって読んでいただけることを目指して、これまでも、和英対照、分割版、インデックス付きなど用途別聖書を次々に企画し、頒布してきました。そうしたなかで『スタディ・バイブル』を、最も大きな付加価値のあるものとして位置づけ、5年ほど前からその発行に向けた準備を進めてきました。そして、本誌前号(20号)でもご紹介したように、まずパイロット版として『四福音書』を来年5月の予定で発行する運びとなりました。

■わかりやすさを最重視

現在、制作に取り組んでいる『スタディ・バイブル』は新共同訳本文を中心として、欄外に訳注・説明、略引照を付記、さらに巻末にガイドや年表、地図などの付録を掲載したもので、基本的な方向性としては「日本人向けに噛み砕いた内容」にすること、特に、クリスチャンだけでなくノン・クリスチャンにも、理解しやすく役立つものにするよう配慮しています。

同書の大きな特徴である訳注・説明などの註については、「The Learning Bible/Contemporary English Version」にあるものを翻訳して掲載しています。この『CEVラーニング・バイブル』(以下『ラーニング・バイブル』)を選んだ主な理由は、英語圏の『スタディ・バイブル』のなかでは、いちばん新しいものであるということです。さらに、初

心者の方にもわかりやすいコンセプトで作られている点や、翻訳が英語を母国語としない人にも「聞いてすぐ理解できる」ものであるという点も、採用のポイントとして挙げられます。

■翻訳作業上の留意点

日本語版の註の翻訳は下訳から監修まで、聖書や英文学の専門家の方々にお願いました。基本的な部分では教義的に偏りが無いこと、日本人向けに噛み砕いた文章にすることを重視しています。

具体的な監修作業では、新共同訳と合っているかという点をチェックすると同時に、『ラーニング・バイブル』では取り上げられていなくても、新共同訳への翻訳ではポイントになると判断したところは補足しています。また、引照箇所については、新共同訳に付いている引照をすべて載せるのではなく、『ラーニング・バイブル』に載っている範囲で新共同訳にも入っているものを入れることを原則として、新共同訳の記載に準じた略引照を入れるという作業を行っています。

出合いの書として 新たな聖書普及に期待

■聖書を学ぶすべての方の教科書

『スタディ・バイブル』は、神学的・思想的・教派的なものではなく、あくまでも聖書

マルコによる福音書



『スタディ・バイブル』パイロット版の見本ページ

『スタディ・バイブル』パイロット版

『四福音書』の特徴

本文中でも触れたように、多種多様な説明付きの聖書は大手出版社からも発行されていますが、一卷ものはほとんどありません。これに対して、日本聖書協会が現在制作中の『スタディ・バイブル』は一冊にまとめられたものです。そのため、初めて聖書を読む方や試しに読んでみようと思われている方にもお求めやすく、特におすすめできます。

ここでは来年2003年の5月に発行する予定の『スタディ・バイブル』のパイロット版『四福音書』に掲載している註の基本的な内容と仕様を端的にまとめてご紹介します。

註の内容

- その箇所原語に基づく解説
- 参照箇所を紹介
- 歴史的・地理的説明
- 社会的背景や生活習慣の説明
- 基本的な神学的意味の説明

仕様

- サイズ/A5判
- ページ数/256ページ(予定)
- 刷り色/2色
- 本文文字サイズ/7ポイント
- 製本/並製本(あじろ)、紙製
- 予定価格/800円(税別)

※ 本文ページのレイアウトフォーマットは、写真をご参照ください。

この『四福音書』は将来的に発行する『スタディ・バイブル』の編集方針や基本的な内容をご紹介しますものです。聖書を読みたい方はもちろん、初めて聖書を読む方にも楽しく読んでいただけます。

ぜひ一読いただき、ご意見をお寄せください。

本文を重視しつつ、さまざまな側面から聖書を読みやすくするための補助的な情報を提供するものです。また、そうあることで、クリスチャン、ノン・クリスチャンを問わず、多くの人々が聖書本来の基礎的・基本的な内容を学ぶことができ、自らの視野を広げていくことを可能にしています。つまり、『スタディ・バイブル』は、聖書を学ぶすべての方々のための教科書としての役割を担ったものといえるのです。

■聖書との新たな出会いをめざして

『スタディ・バイブル』はひとつの試みです。それは、従来の聖書本文のみの提供から、解説・図版など聖書本文に一定の付加価値をつけた形での提供への方向転換とも言える試みです。この『スタディ・バイブル』の出版が日本の読者の皆様に受け入れられるかどうか、これは出版側の私どもにとってはたいへん関心のある出来事です。

しかしながら、それ以上に大切に思っていることがあります。それはこの『スタディ・バイブル』が、今まで聖書というものに興味がなかった方、あるいはチャレンジしたけれどよくわからなかったという方にとって、聖書と出会い、さらに深く学んでいくきっかけの書となること、また、何度も繰り返し聖書を読まれてきた方にとっては、聖書をさらに深く味わっていただけるものとなることです。この試みがより多くの皆様に聖書とのすばらしい出会いをもたらし、それを切に願っています。

旧約聖書における 神の意志と歴史

山我哲雄

やまが てつお

北星学園大学教授



周知のように、旧約聖書の神ヤハウェは超越的な神であり、姿の见えない神、より正確にはその姿を目に見える形で表わすことが許されない神でした。神の姿を絵や像に表現することは、偶像崇拜として厳しく禁じられていたからです。しかし古代イスラエル人は、この姿のない

神を、隔絶した、抽象的な、自分たちの生活にとつて縁遠い存在とは決して考えませんでした。それどころか、古今東西のあらゆる民族のうち、イスラエル人ほど自分たちの神の存在と意志を身近なものとして、リアルに感じ取っていた民族は存在しなかったと言えるでしょう。それではイスラエル人はいつたいどこに神の存在と意志を感じ取ったのでしょうか。それは、主として、彼らが体験する民族の歴史の中にでした。ここに、古代イスラエル人と旧約聖書の神観、世界観、歴史観の大きな特色があると言えましょう。

東アジアの宗教では、この世界の実相を「永劫回帰」ないし「諸行無常」としてとらえ、むしろそのような無意味な生成消滅の連鎖からの脱却(解脱)を目指しました。それゆえ、そのような思想風土においては、救済を求める営みとしての宗教の目標は、必然的に「彼岸的」なものとならざるを得ません。したがって、そこでは現実世界の動きである歴史というものにあまり積極的な意義が見出されませんでした。これに対し、イスラエルでは、歴史は神によつて動かされるものと考えられ、神の意志の表現と見なされたため、そこに展開するもろもろの出来事に、かけがいのない一回限りのものとして、限りなく真剣な関心が寄せられました。旧約聖書中の諸文書の多くが、歴史書としての性格を持つているのもこのことと関連します。イスの旧約学者ヴァルター・ツィンマリは、かつて旧約聖書の信仰の特質を「この世的」と呼びましたが(邦訳『旧約聖書の世界観』教文館)、その意味で旧約聖書の宗教性を「彼岸的」と呼ぶこともできましょう。そして此岸的であるということとは、同時に歴史的存在であるということでもあるのです。

旧約聖書には、歴史的世界を離れた彼岸的な意味での「天国」も「地獄」も存在しません。神の救いも、裁きも、イスラエル民族が体験する歴史の中に実現すると考えられたからです。例えば、『モーセ五書』に描かれた出エジプトに代表される、苦難や抑圧からの解放や、『ヨシュア記』に記された「乳と蜜の流れる地」の獲得、『サムエル記』や『列王記』のはじめに描かれた、ダビデ王のもとの敵への勝利や強力な国家の確立、ソロモン王の時代の持続的な平和や経済的繁栄などは、いずれも神の恵みと救い

を意味するものとして理解されました。

「主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出された(申命記7・8)」

「守備隊はエドム全土に置かれ、全エドムはダビデに隸属した。主はダビデに、行く先々で勝利を与えられた(サムエル記下8・14)」

逆に『列王記』や預言書の多くに記されている、飢饉や自然災害の続発、国家の分裂や没落、アッシリアやバビロニアの攻撃や支配、国家の滅亡、異国への捕囚などは、人々の罪に対する神の怒りと裁きの意志の表明と解釈されました。

「主はイスラエルに対して激しく憤り、彼らを御前から退け、ただユダの部族しか残されなかった(列王記下17・18)」

「エルサレムとユダは主の怒りによってこのような事態となり、ついにその御前から捨て去られることになった(列王記下24・20)」

このように、それぞれの時代に現実的に体験される歴史的世界そのものが「天国」にもなれば「地獄」にもなるのです。

旧約聖書の預言も、単なる「予言」ではなく、神の意志の告知であり、それはそれぞれの時代の歴史の現実的な展開に密接に結び付いています。預言者たちの多くは、イスラエル王国が南北に分裂した後の没落期に活動しましたが、彼らはそのような下降線を描く歴史の展開の

原因を民の罪に見出し、その逸脱を厳しく批判するとともに、来るべき歴史的破局を神の審判として予告しました。それは、同時代の歴史の動きが何を意味するかについての優れた解釈でもありました。

「その日には、わたしの主は大河のかなたでかみそりを雇われる。アッシリアの王がそれだ。頭髮も足の毛もひげもそり落とされる(イザヤ書7・20)」

「見よ、わたしはわたしの僕バビロンの王ネブカドレツアルに命じて、北の諸民族を動員させ、彼らにこの地とその住民、およびその周囲の民を襲わせ、ことごとく滅ぼし尽くさせる(エレミヤ書25・9)」

他方で預言者の多くは、歴史的苦難を神の裁きとして意味づけましたが、同時にそのような破局を超えた未来の救いをも指し示すことにより、人々に希望と信仰の力を与えました。『イザヤ書』や『ミカ書』のメシア預言、『エレミヤ書』の捕囚からの帰還や「新しい契約」の預言、『エゼキエル書』の枯れた骨の再生や新しい神殿の預言などがこれに当たります。それらは、希望に満ちた「未来の歴史」を描き出すことによって、神の究極的な意志が裁きではなく、救いにあることを示すものでした。

「バビロンに七十年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。

わたしはあなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである(エレミヤ書29・10・11)」

しかしながら、個々の歴史的体験の中に神の意志を見出すだけでなく、それを神の救いや処罰の意志の表現として意味づけようとする営みは、ややもすれば、常に非合理的要素を含む歴史というものを、人間の視点から無理にでも合理化して捉えていこうという傾向に陥ります。伝統的な知恵文学『箴言』や後期の歴史文学『歴代誌』には、やや硬直化し図式化された応報主義が見られることが指摘されています。

他方で、歴史の流れを合理化して説明しようとする努力は、究極的な歴史的無条理に直面したとき、挫折せざるを得ません。後期の知恵文学である『ヨブ記』や『コヘレトの言葉』には、伝統的な応報主義的世界観に対する鋭い批判が見られます。世の中の出来事すべてを、人間にとつての不幸、損得の観点から説明しようとするのは、人間の傲慢に過ぎないというのです。

「まことに、太陽の下に起こるすべてのことを悟ることは、人間にはできない(コヘレトの言葉8・17)」

旧約聖書の最後期の文書である『ダニエル書』



携帯電話で
聖書が読める

i ばいぶる

2002年12月
スタート

『i ばいぶる』
イメージ写真

「携帯電話で聖書が読めたら…」

多くの皆様のご希望にお応えして、読みたいときに、読みたいところで、携帯電話から言葉が読めるシステムを開始します。

内容は、今日の聖書日課、聖書（新共同訳/口語訳）本文の書名・章節検索とキーワード検索、聖書に出てくる植物や史跡の写真を掲載したフォトギャラリーと盛りだくさん。

この『i ばいぶる』はすべて無料でアクセスできます。ぜひご利用ください！

※ 携帯電話の機種はNTT DoCoMoに限られます。

神戸バイブル・ハウスが復活！ 聖書協会も全面的に協力

現在、神戸を中心とした関西の諸教会が超教派の協力の下に、神戸バイブル・ハウスの設立を進めています。あの第二次大戦で閉鎖を余儀なくされた神戸のバイブル・ハウスを、再び現代に、西日本の聖書普及の一つの拠点としてよみがえらせようという画期的な試みです。

企画としては、図書館、展示、研究、販売、広報宣伝などの機能が考えられており、西日本におけるキリスト教情報ネットワーク機関を目指しています。2004年に神戸市の中心地に設立を予定。現在、賛助会員システムを設けて多くの方へご協力を呼びかけています。



戦前の神戸バイブルハウス

神戸バイブル・ハウス公式サイト

<http://www.save.or.jp/kobe-bible-house/>

は、シリア王アンティオコス四世のユダヤ教迫害（前167年頃）のさなかに書かれました。ギリシア文化に心酔したこの王は、支配下にあったユダヤ人にもギリシアの神々の崇拜を強要し、伝統的なユダヤの宗教を禁じ、逆らう者を大量虐殺しました（マカバイ記11章参照）。それはユダヤ人にとって、信仰を棄てた者だけが生き残り、信仰を守ろうとした者は皆殺しにあらうという、まさに究極の歴史的不条理でした。

注目に値するのは、この時初めて、ユダヤ人が従来のように歴史内の転換、すなわち苦難の時代に替わる新しい救いの時代ではなく、そのような不条理に満ちた歴史そのものの終わりのすなわち世の終わりを希求し始めたということとです。これが、黙示思想ないし終末論と呼ばれるものですが、重要なのは、聖書的な意味での終末論とは、終末に至って万物が無に帰すことではなく、古い世がまったく新しい世によって置き換えられることを意味するということです。その意味で、ここでもまた、旧約聖書の思想は此岸の性格を保っていると言えるでしょう。

言い換えるなら、そこでは別世界である天国や極楽浄土と言った空間的彼岸ではなく、時間的な彼岸が志向されているのです。ただし、それが単に歴史内の時代の転換といった相対的な変化ではなく、徹底的で絶対的な転換を希求するものであったことは、そこに「死者の復活」や「永遠の命」といった、それまでの旧約聖書の思想に見られなかった、歴史的現実を超越した希望が現れていることに示されています。

「多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。ある者は永遠の生命に入りある者は永久に続く恥と憎悪の的となる」（ダニエル書12・2）

しかし、このような信仰は、その後のユダヤ教では異端的なものとして退けられる傾向に陥って衰退し、むしろキリスト教に受け継がれてさらなる発展を遂げました。イスラエルの歴史の中に神の意志を見出そうとする旧約聖書の歴史観は、まさにその挫折を通じて、新約聖書における新しい「救いの歴史」を指し示していると言えるのではないだろうか。

音楽劇

『日本に帰れなかった男たち』

東京初公演 決定！

幕末の漂流民で、シンガポールにおいてギュツラフの聖書訳作業に協力した音吉たちの物語を描いた音楽劇『日本に帰れなかった男たち』が、2005年、東京で初めて上演されることになりました。

このミュージカルは、音吉の故郷である愛知県美浜町を中心に地元の劇団で演じられてきたもの。初の東京公演は2005年8月を予定しており、同時にツアー公演として神戸での上演も計画中です。

これに先立ち、ただいま、歴史絵本『日本に帰れなかった男たち』（本体1500円）が好評発売中。お問い合わせは、下記の「音吉の会」まで。

■音吉の会

TEL 052(803)1512

URL <http://www.otokichi.net>



絵が豊富に挿入された感動の物語

BS NEWS

「音吉」と言えば、現存する最初の日本語聖書である『ギュツラフ訳新約聖書』（1837年）の翻訳作業を助けた人として多くの人々に知られるようになりましたが、現在、新しい音吉顕彰碑の設置によって、まさに音吉物語が現代によみがえろうとしています。

2002年の夏8月22日に、在シンガポール日本大使館とシンガポール日本人会の計らいにより、シンガポール日本人墓地に「音吉顕彰碑」が設置され、その除幕式が行われました。音吉は晩年マレーシア人を妻とし、1862年シンガポールに移り住んだため、その娘エミリー・ルイザ・オトソンの墓碑はフォート・カニング・パーク敷地内にギュツラフ夫人の墓碑と一緒に残されていますが、音吉自身の墓地はほかの場所で、すでに病院建築のために造成地となり跡形もない状態

Eメール

シンガポールでの 音吉顕彰碑の前に

渡部 信

わたべ まこと
日本聖書協会総主事

にありました。しかし、140年経った今日、シンガポールで最初の日本人として、それにふさわしく、シンガポール日本人墓地に顕彰碑が設置されるようになったことは大変に名誉なことだと思います。

音吉は初めてイギリスに帰化した日本人となりました。キリスト者として長老教会の礼拝に集いつつ、どのような信仰生活を晩年送ったのかは知る由もありませんが、あの「ハジマリニ、カシコイモノゴザル」に始まる和訳聖書がそのまま彼の信仰を支え続けたに違いありません。

一男二女の子供たちのうち、ジョン・

W・オトソンは日本に帰化して神戸に移り住んだところまでわかっていますが、二人の娘もイギリス人と結婚したと考えられており、今その子孫探しが、在イギリス日本大使館の協力などによって進められているのが現状です。

シンガポール日本人墓地では、シンガポールで客死した二葉亭四迷のひとときわ大きい墓碑が建てられていたのが印象的でした。



手前が音吉顕彰碑

神が（私たちを通して）働かれる

守部喜雅

エッセー

19

昨年、中国から一人の高齢の女性伝道者がプライベートに日本を訪れた。その来日は日本に留学して現在は日本の企業に働いている孫が招く形で実現した。私的な訪問ということもあり、非公式にいくつかの集会でメッセージをするにとどまったがその反響は大きかった。

この おばあちゃんと呼ばれ、中国の家の教会で親しまれている女性伝道者は、この40年間、精力的に農村で伝道してきた。中国西北部の農村地帯を中心に巡回伝道を続け、80歳を越えた今も、月に1度は遠距離バスで都市にある自宅から農村に出かけ、10数か所の集会を巡回しては聖書の話をしている。一つの集会には300〜400人の人々が集まっており、総計すると5千人近くの群れということになる。

こんな数字を並べると日本人の感覚からすると、いかにも誇大な報告に聞こえるが、この50年間に中国で起こった驚くべき伝道の進展の記録を見ると、おばあちゃんの周辺で起こっていることが決して例外的ではなく、中国の各地で当たり前のようになっている現象だということが分かる。

さて、おばあちゃんの来日である。非公開ではあったが、10日間で8回程度の集会で奉仕した。教会や老人ホーム、障害者施設などに加え、いくつかの家庭集会にも招かれた。

その一つの家庭集会での事、私も参加していたのだが、メッセージが終わって交わりの時間になった時、来会者から深刻な質問が飛び出した。「どうして日本の教会は成長しないと思いますか」と言うのだ。

しばらく沈黙していたおばあちゃんは、きっぱりと言った。

「それはクリスチャンに愛がないからです」。

もちろん、おばあちゃんは日本の宣教事情を知っている訳ではない。だが、集まった人々は少なからず衝撃を受けた。それは、私自身も同じだった。教会に関する情報を発信するという仕事柄、「日本宣教の課題とは？」などと、ひとつひとつのように論を展開してきたが、自分自身がどれだけ、具体的に隣人に近づき、その魂の痛みを共有してきたと言えるのか……。この一言は、どんな宣教学の提言よりも私の胸に響いた。そして、愛に生きるクリスチャンの秘訣とは、聖書を学ぶだけでなく、聖書に生きることにこそある、とおばあちゃんは語ってくれた。

以前、アメリカの福音主義の神学者ウィルバー・スミスの晩年のインタビューを読んだことがある。その当時84歳の神学者は「あなたの人生で一番、後悔していることは？」という質問に「それは、個人的に隣人に福音を伝えることをしなかったこ



とです」と答えている。この神学者の悔いはまた、私自身の悔いになる危険性があるように思えた。

そう言えば、私たちは「伝道」ということに関しても的外れの考えを持っているのではないか。それ故にというか、閉塞感が日本の伝道の現場にただよってはいないか。少なくとも、私自身の周囲には、燃え尽き症候群の中にいる牧師や信徒が少なくない。かく言う自分もまた、一人のクリスチャンとして魂への情熱の欠如を痛いほど感じている。

これも中国での体験になるが、だいぶ前に日本から数人の牧師先生をお連れして訪中したことがある。目的は苦難の中を歩いて来た中国の家の教会の指導者と信仰を分かち合うためだった。ちなみに、日本から中国の家の教会を訪ねる牧師が必ずといっていいほどの質問がある。それは「なぜ、中国ではこんなにも多くの人が信仰を持つのですか」また「どうしたら日本で伝道が進むでしょうか」。

1949年、中国に共産主義政権が成立した当時、約70万人のプロテスタント信徒がいたと言われる。それが、この50年で約100倍の成長を遂げたとの報告がかなりの信憑性で語られるようになった。日本はこの50年に比べると、考えられないような数字だ。なにせ、日本ではクリスチャンの数は120万人位と言われ、毎年、約五千人の受洗者が増えられているが、その

数以上に教会を離れる人数は多い。その結果、しっかりと教会につらなっている所謂、活会員となると25万人くらいにしばらくするというのが統計が示す現実である。

このような危機感の中で、日本から中国を訪れた牧師たちは中国の伝道の秘訣を聞きたがった。ところが、その時、中国の老伝道者は質問に答えることなく逆に唐突な質問をした。

「先生方にお尋ねしますが、伝道とは何だと思われませんか」。

日本の牧師達は声を失った。答えられないのでなく、質問があまりに単純だったからである。しかし、この質問は重かった。しばらく沈黙が続いた後、中国の伝道者は言った「伝道とは私たちが神様のために働くことではありません」。意外な言葉に牧師たちは驚く。どうして伝道が神のために働くことではないのか。あらゆることを犠牲にして働くことが伝道ではないのか。そんな思惑の中、その中国の伝道者は言葉が続けた。

「伝道とは、神様が私たちを通して働かれることです」。神が主権を持つておられると言うのだ。

この会談後、ある日本人牧師は、牧師になって初めて本当の自由を感じたと率直に感想を語った。これまで、伝道しなければ、働かなければと、思いつめ、自分を責め、いつのまにか燃え尽きていた。けれど、人間の側がおろかにも魂を救う方法論を考えている間、神様はすでに働かれていた、と分かった、と言うのだ。

日本のように自由に伝道ができる状況にはない環境の中で、福音が前進している中国の現実には、その中国の伝道者の言葉の真実性をあかししていると言えないだろうか。

80歳を越えた中国のおばあちゃん伝道者から学んだこともそうだった。真実とは実に単純な形で現われるのかもしれない。

日本聖書協会 主催

緊急報告!

第6回バイブルフレンズの集い

「現代の企業と生命の道」

過去最高647名を集めて、大盛況のうちに開催



講演する飯島延浩氏



集まった大勢の参加者

講師：飯島延浩氏（山崎製パン株式会社 代表取締役社長）

日時：2002年9月20日（金） 午後5時30分～8時30分

場所：ホテルニューオータニ（東京都千代田区）

秋のさわやかな風が吹き始めるころ、毎年恒例の「バイブルフレンズの集い」が開催されました。第6回となる今回は、業界ナンバーワン・山崎製パンの飯島延浩社長を講師としてお迎えし、「現代の企業と生命の道」と題してご講演いただきました。飯島氏は、熱心なクリスチャンとして、また、優れた手腕の企業家として、さまざまな分野で広く

ご活躍されています。そのご経験を踏まえて、信仰と生活、特に信仰と仕事の関係をどうとらえていくべきかをお話しいただきました。

同氏は、自らの経営者としての人生を振り返って、山崎製パンの初期における事業不振からの再生は、創業者と同氏が神に目覚める体験に比例して起こってきた事実を証しされました。そして、10年来進めてきたピーター・ドラッカー博士の経営理論を取り入れた『実践的バイブルスタディー』

の内容を披露しつつ、聖書の中心は山上の垂訓と十戒にあり、これを基本にすべての生活を見ていけば、そのときの神のみこころが明確になってくることを事例

を挙げながら鋭く指摘。さらに「事業と信仰をどのように理解し両立させていくかを求め続けてきました。企業と教会は目的は違いますが、人の組織体であることは同じです。同じ原理原則が組織体を支配していることは事実であり、それは十戒と（神を愛し、人を愛せよという）新約を代表する2つの戒めです。私のヤマザキの体験からでも信仰なしの事業は全く考えられませんが」と、その思いを語ってくださいました。

今回は講演がビジネスに関する内容であったこともあり、参加者は一般の方々、特に企業関係者が多く、教会関係以外の方々に向けて、聖書を知っていただく良い機会にもなりました。

当日はこの講演のほかにも、讚美のひと時と夕食会があり、参加者それぞれがお互いに親睦の時をもちました。

25年におよぶ息の長い通読

沖縄中部朝祷会

沖縄中部朝祷会では1978年2月ごろより、毎週日曜日の朝6時から聖書通読を始め、約24年10カ月後の2002年11月4日、ついに、創世記1章から黙示録22章までの1,189章を通読いたしました。

ガラテヤ6章9節に「たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば時が来て実りを刈り取ることになります。」とありますように、愛と恵みに富みたもう神様は、亀の歩みであった、祈りと聖書通読の旅を全うさせていただきました。

また、ヘブル12章1、2節「自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の創始者また完成者であるイエス様を見つめながら。」とありますように、「私はアルファでありオメガである」とも言われる忍耐と励ましの神様は、私たちに聖書通読という長距離マラソンを完走させてくださいました。

完走に至るまでには、さまざまな思い出があります。たとえば、奨励者（多くの場合、教役者）は、前の週か

らの続きの章ではなく、ほかの箇所から随意になさることもありました。その日の難解な章をどう解き明かしてくれるのか、興味深々たる思いでいても、「はい、何ページを開いてください」と逃げられ(!?)、聖日礼拝の説教と思われるようなお話になったりして、物足りない思いをしたこともあります。もちろん、時には予期しない意外な教えに接することができ、たいへんよかったと思うこともありました。

さて、朝祷会に集う者は、おのこの教会が違います。そのため、聖書も口語訳、新改訳、新共同訳とさまざまなものが使われていますが、それに対する違和感はありません。違う訳語を聞くと、そういう意味もあるのかと学ばされることもあり、むしろ良いことだと思っています。また時には、宣教師やその他の飛び入りの方がみえ、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、韓国語、英語の聖書が通読されたこともあります。さまざまな国の言葉で示されたみ言葉に触れられたことは、とても勉強になりましたし、よい思い出と

して心に残っています。

25年前、創世記1章「始めに神は天と地とを創造された。」に始まり「以上、全てを証する方が言われる。『然り、私はすぐに来る。』アーメン、主よ来てください。」「主イエス様の恵みが全ての者と共にありますように。」と読み終えたときには、喜びと感謝と感動の嵐が沸き起こり、朝祷会員一同、「主よ感謝します。万軍の主の熱心がこれをなさったのであります。ついに主が私たちを用いて聖書全巻を読破させてくださいました。」「主よ、主よあなたは何と恵みに満ちたお方でしょうか。」と祈りを捧げました。そして、その日の正午からは、北部や南部から42人が集い、喜びに満ちて感謝会を催しました。

私たちが小さな灯心を消すことなくここまでこれたのも、全国の祷友の皆様から届けられた寄せ書きのおかげで、全国の祷友のご加護のおかげでもあります。皆様には、この場を借りて、今後ともご指導とご加護をお願いいたします。

朝祷会では、2002年11月11日より、新たに新約からの聖書通読を始め、当日はマタイ1章を輪読しました。新約聖書は260章ありますから、5年後の今ごろ完走することになります。そこに目標を置いて、主と共に歩んでいきたいと思っています。ハレルヤ！（ピリピ3章12-14節）

主に感謝！

沖縄中部朝祷会
（世話人代表 和宇慶朝吉）



熱心に聖書に向かう朝祷会メンバー

み言葉に求めた人間の真実

太宰治と聖書

鈴木範久

すずきのりひさ 立教大学名誉教授

「入院中はバイブルだけ読んでゐた」

(1936年)

「旅行中もただ聖書ばかりを読んでゐました」
(1941年)

太宰治の全集（筑摩書房刊）を読んでみると、たびたび、このような文章に出会う。その作品は、戦後の青年のみならず、現代の学生諸君にも依然として愛好されている。日本文学科はもちろん、キリスト教学科の学生のなかからも、卒業論文に太宰を取り上げる人達が絶えないからである。いや、若者だけでなく、私のような高齢者にもいまだおもしろい。

それは、やはり太宰が、人間の真実を鋭くつく作家だったためと思う。そして太宰

に、人間の真実をつかせたものに聖書があったように思う。そのことがあってか、最近の太宰研究において目立つ傾向は、太宰と聖書との関係である。単行本だけでも、佐古純一郎編『太宰治と聖書』（教文館／1983）、赤司道雄『太宰治―その心の遍歴と聖書』（八木書店／1985）、田中良彦『太宰治と「聖書知識」』（朝文社／1994）、野原一夫『太宰治と聖書』（新潮社／1998）と続けて刊行されている。

太宰治と聖書との出会いは、1932（昭和7）年の共産主義運動からの離脱のあととみなされる。作品では、1935年10月に発表された『もの思ふ葦』のなかで、『太初に言あり……』で始まるヨハネ伝冒

頭の言葉が引かれている。

実は、この年の夏、太宰は、画学生の鰯崎潤と出会う。鰯崎潤の兄轍は、内村鑑三の聖書研究会に出席していた。内村はすでに5年前に世を去っていて、弟の潤は内村門下の塚本虎二の集会に出ていた。潤によると、太宰に、内村の著書『基督信徒の慰』『求安録』『一日一生』、塚本の雑誌『聖書知

『聖書知識』（聖書知識社発行）



識」などを持参したという（筆者への談）。

同年暮、湯河原、箱根の旅に出た太宰は、その間、内村鑑三の「随筆集」に「ひきずり廻されたことを告白」した『碧眼托鉢』。これは岩波文庫の『内村鑑三随筆集』とみてよい。塚本の雑誌『聖書知識』は1940年ごろから購読し、同誌と太宰の作品との関連が明らかにされつつある。太宰は、しだいに聖書に親しみはじめ、その聖書との関係は、戦中をへて戦後の死に至る日まで続く。太宰の作品や書簡に現れる聖書の言葉は、新約聖書では四福音書、使徒行伝、ロマ書、コリント後書、テモテ前書、旧約聖書では創世記、出エジプト記、申命記、サムエル後書、詩篇、伝道の書、イザヤ書などである。なかでもマタイ伝が際立って多い。

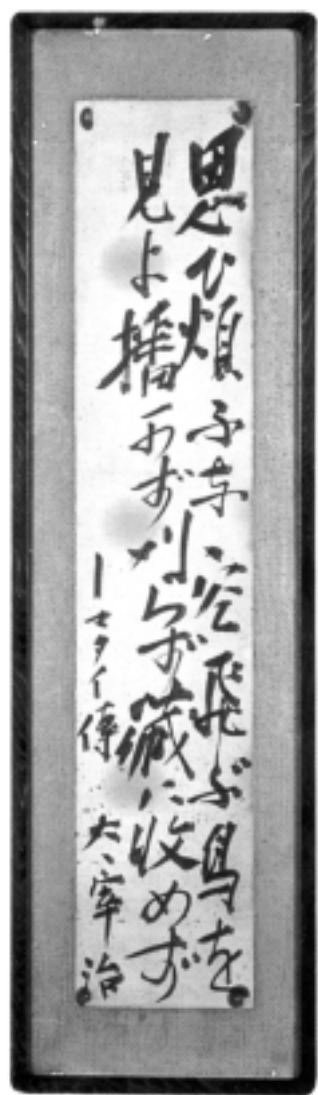
引用された聖句の文章を見るかぎり、用いられた聖書は、新約聖書では、1917（大正6）年に改訳されたいわゆる「大正改訳」である。旧約聖書は改訳されなかった。1887年に訳了された文章が使われている。太宰は、たぶん改訳の新約聖書か、旧約も含めた一冊本の聖書を読んだであろう。しかし現物は度重なる転居で散逸し残されていない。おそらく必要に応じて買っていたと思われる。最近になり、敗戦直後にアメリカで印刷された小冊子『ルカ福音書』一部だけが見いだされた。

太宰と聖書の関係につき、さまざまな見方ができる。ここでは二点だけ指摘したい。

第一は、太宰が好んで用いた聖書の言葉「己を愛する如く隣人を愛せよ」と、「大正

改訳」の「己のごとく汝の隣を愛すべし」（マタイ19・19）との類似しつつ相違する点である。太宰の使い方をみると、わずかな出入りはあっても常に「愛する如く」と「隣人」の表現で用いている。このような定型的表現は、太宰において、この聖句が、その語句のまま深く刻み込まれていることを物語る。（ちなみに『内村鑑三随筆集』では「自己を愛する如く吾人の隣人を愛すべきなり」と記されている。太宰はこちらに近い）。同じことは「空飛ぶ鳥を見よ、播かず、刈らず、蔵に収めず」にもいえる。「大正改訳」では「空の鳥」（マタイ6・26）であるのに太宰は常に「飛ぶ」を入れている。これもほぼ一貫している。

第二は、この「隣人を愛せよ」と「空飛ぶ鳥」との間にあろう。これらの言葉をはじめとする太宰と聖書、あるいはキリストとのことを考えるとき、そこに展開している心景は『歎異抄』の世界に近い。それも倉田百三が『出家とその弟子』で描いた「善鸞」の像と重なる。「苦悩」する近代人を「そのまま」、「自然」のまま認める世界である。太宰にとり聖書は、この近代人の「救済なき救済」を示すことによって、太宰を、その人生においても作品においても「救済なき救済」にかかわらせた書物であった。



太宰治の書（大高喜久江氏旧蔵）

ご存じですか—— 日本には約100万人のろう者の方々が いらっしゃるのです…

日本初の「手話訳聖書ビデオ」の完成を目指して、『ヨナ・ルツ』、
『マルコ』、『使徒』、『ピリピ』、『第一テサロニケ』、『第二テサロニケ』、
『ヤコブ』に続き『ガラテヤの信徒への手紙』を発売中。



日本ろう福音協会では、
一日も早い完成を目指し、
翻訳と製作に取り組んできました。
本年から、日本聖書協会は完成に向けて
支援してまいります。

Support Request for the Production of the Sign Language Bible

編集後記

今回は『スタンバイ・バイブル』を特集しました。この出版は日本聖書協会としては、これまで読者の皆様から「要望」という形で与えられていた課題でした。そして、近い将来、旧新約聖書の形で世に出す計画です。お隣り韓国では、聖書出版における一つの大きな潮流になりつつあるとはいえ、日本でその出版は受け入れられるのか？これは聖書本文のみを地道に提供してきた私どもにとつては、たいへん興味のある出来事です。

また、もう一つの大きな課題として、現在手話訳聖書ビデオの製作を進めています。聖書の言葉の一言一句を手話に置き換え、それを撮影し、ろう者の方にチェックしてもらおうという大変な作業で、全巻完成まで今後15年の歳月を要すると考えられています。なぜビデオにするかというと、ろう者の方は日本語を十分に理解して使える人は少なく、日本人が英語を読むのと同じように、書かれた文章の読解に苦労されているのが現状だからです。ろう者の方にとっては手話が一番自然な言語なのです。

こうした課題に対する皆様のこれまで以上のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【訂正とお詫び】

前号のP.11で掲載しました『教会の幅広いご協力をもとめて』におきまして、ヘイゼル・タヒューン氏のご紹介記事に誤りがありました。正式には、同氏は日本基督教団東京池袋教会で宣教師をされています。関係各位にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

◆本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。
お葉書、Eメールなどでお受けいたします。
お寄せくださった方には素敵な『絵葉書セ
ット』をもなくプレゼントいたします。
Eメール / info@bible.or.jp

貧者の聖書 (ファクシミリ版) Biblia Pauperum (facsimile)

15世紀
縦：57cm 横：37cm

『貧者の聖書』とは、13世紀中ごろ成立し、東南ドイツ、オーストリアを中心に中部ヨーロッパに広く分布した、説教や教育用に用いられたといわれる一種の「絵入り聖書」の一文書類型に付された通称である。

15世紀からはネーデルランド、フランス、イタリアでも刊行された。

この聖書の特徴は、キリストの生涯の各場面が、旧約聖書であらかじめ型どられているものの完成として、つまり「予型論」という考えに基づいて、新旧両聖書の記事と絵解きの画像を対応させていることである。

ラテン語本文と初期新高ドイツ語で書かれている。

オリジナルはバチカン図書館所蔵。



データで聖書を読むなら

Jnet-ばいぶる

Basic版 CD-ROM



● CD-ROM代

¥1,000 (本体)

● 別途登録料

¥1,000 (本体)

新共同訳聖書の
全本文が(旧約続編)
含む
利用可能。

全国のキリスト教専門書店で発売中!

インターネット初心者でも
操作簡単。

インターネット版も
あります

お求めは
<http://www.jbible.net> まで



簡易パッケージ、お求め易い価格で再登場!

新共同訳 録音聖書CD版

聴く聖書、待望の再刊!

一流の声優陣による透き通った朗読で、
み言葉の鋭さと力が体感できる。
時間を決めて聴いてもいいし、仕事の合間に
BGMとして流しておくのもよい。
まさに神と共にある生活。
あなたも始めてみませんか?

2002年
12月1日
発売

1 創世記～申命記
本体 9,240円

2 ヨシュア記～エステル記
本体 12,320円

3 ヨブ記～マラキ書
本体 14,080円

4 新約聖書
本体 11,880円

■ お問い合わせ・カタログ請求は下記へ



財団法人
日本聖書協会
JAPAN BIBLE SOCIETY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル

TEL 03-3567-1987 FAX 03-3567-4451 <http://www.bible.or.jp>

● ホームページからも注文できます(荷造送料別途)

